

むらおこしコンテストinふつつ2023 実施報告書



東大むら塾



むらおこしコンテストinふつつ
2023 運営本部

目次

1. むら塾代表・企画責任者挨拶	3
2. 開催要領	4
3. 富津市および各対象地区基本情報	6
4. コンテスト実施記録	12
5. 各種実施コンテンツ紹介	14
6. 最終発表会・発表プラン	17
7. 参加学生アンケートまとめ	23
8. 関連メディア情報	29
9. 特別協賛・協賛企業	29

1. むら塾代表・企画責任者挨拶



東大むら塾代表

東京大学 法学部 2年
松田 治之

東大むら塾は、2015年度より富津市相川梨沢地区を舞台に活動をはじめ、「農業×地域おこしでむらの未来を変える」というスローガンのもと、稲作や畑作を通じた相川ブランドの創出に励むとともに、地域の子どもたちへの学習支援をはじめとする連携活動を行っております。このむらおこしコンテストは、むら塾が天羽地区全体と協働し、連携していく、ひとつのきっかけになっております。

富津市役所の皆様や天羽地区区長会の皆様、ご協賛いただいた皆様には、企画段階から当日の運営まで多大なるご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。今後とも私どもの取り組みにご理解いただけますようよろしくお願い申し上げます。

この度は、本企画の趣旨にご賛同の上、多大なるご協力、ご参加を賜りました皆様に、心より深く感謝申し上げます。本年のコンテストは新型コロナウイルスの流行下でできていなかった対面開催を部分的に復活させ、第1週は全国の参加学生とオンラインでつなぎ、第2週は天羽地区での対面開催という形態で開催させていただきました。地域の皆様から企画準備の段階から当日まで大変なご尽力をいただいたこと、そして全国各地から集まった15名の参加学生が3/11から1週間、寝る間も惜しんでプランニングに対し真摯に向き合ってきたことにより、本コンテストを無事に、そして当初の目的を達成しつつ終わることができました。あらためて、皆様からの暖かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。

今後ともむら塾一同精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



企画責任者

東京大学 経済学部 2年
小原 颯一郎

2. 開催要領

主 催 東大むら塾

協 力 富津市・天羽地区区長会

日 程 令和5年3月11日(土)～19日(日)

参加者 大学生15名

会 場 3月11日～12日(第1週)はオンライン

3月17日～19日(第2週)は富津市民会館を

拠点に対面開催

参加費用 5000円

企画コンセプト

「住民目線で、日本一ミクロな地方創生」

昨今、様々な分野で政策提言コンテストが開催されており、地方創生の分野でも同様の取り組みが活発になってきていますが、これらの取り組みの多くが自治体や中央省庁、NPOなどを開催主体とした「行政目線」で行われており、実際に住民の声に寄り添ったプランコンテストの開催は多くありません。住民の実情をより反映させ、住民とともに地域課題の解決を図っていく「住民目線」でのコンテストが必要であるという意識のもと、本コンテストを企画しました。また、私たち東大むら塾が感じてきた、「住民」ではない「外部の人間」として地域課題に携わっていく難しさや、「住民目線」を追求する体験を多くの学生に共有したいという思いもございました。

コンセプト実現に向けた本企画の特長

参加学生の皆様は、まず東大むら塾生があらかじめ地区を巡って準備した地区資料や区長さん、住民の皆さんへのインタビューなどを通して富津市の課題や現状を学びます。そして、学んだことを踏まえて把握した地域課題への解決策を練り、最終的にそれらの案の発表を行い、審査員からのフィードバックを受けます。本コンテストを通じて、参加学生には行政ではなく学生が地域に入り込んで課題を考える意義を踏まえ、住民の生活を常にイメージし、住民の方々の視点に立って課題解決に取り組み、このコンテスト自体が単なる課題・解決策の発見に留まらない地方創生の一環であることを意識して頂きます。以上に掲げるような、「住民目線」の徹底した追究が、本コンテストの第一の特長です。

そして、第二の特長が、地区の区分に沿って行われるチーム編成です。具体的には、参加者の皆様には地区単位でチームを組み、それぞれに地域に密着して活動し、プランを立案して頂きます。これにより、各地区の実情に即し、インパクトを与えるような課題解決を図ることが可能になる上、それぞれの地区が他地区との差別化を通して固有の魅力を存分に発揮できます。また、ミクロな視点・領域で課題解決に挑戦できるため、5日間という比較的短い日数でも対象地域の課題を把握しやすくなり、十分に現実的で効果的な立案・提言を行い、達成感を得ることが可能になると思われます。

3. 富津市および各対象地区の基本情報

(1) 市の紹介

(富津市HPより引用: <http://www.city.futtsu.lg.jp/0000000526.html>)

富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北 40キロメートルに及ぶ海岸線と、緑豊かな鹿野山(かのうざん)や、切り立った崖の鋸山(のこぎりやま)など、海や山に囲まれた自然豊かなまちです。

東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立といわれ南房総国立公園(国立公園に準じる景勝地)にも指定されています。富津岬の最先端にある五葉松をかたどった展望塔は、東京湾を一望できるだけでなく、冬に空気が澄んだときは富士山をくっきり観ることができます。また、ここから観る富士山は絶景で、関東の富士見百景に選ばれています。

東京湾アクアラインや館山自動車道の開通で、首都圏からのアクセスが向上、利便性が高くなり、潮干狩りや海水浴、ハイキングなどで多くの皆さんに楽しんでいただいています。

「市民が自信をもって次世代にバトンを渡せる富津市づくり」を念頭に、富津市に住むことに誇りや愛着を持ち、幸せを実感していただけるよう取り組んでいます。

沿革

明治22年(1889)町村制の施行によって青堀村、富津村、飯野村が誕生しました。

明治30年には富津町、大正15年に青堀町と改め、町村合併促進法の施行により、昭和30年(1955)に富津町、青堀町、飯野村が合併して富津町となり、旧大佐和町も町村制の施行により、大貫村、吉野村が合併し、大貫町となり、さらに昭和30年大貫町と佐貫町が合併して大佐和町となりました。

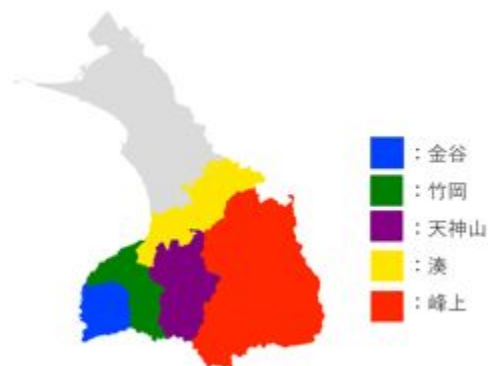
また、旧天羽町は湊町、天神山村、竹岡村、金谷村が合併し、天羽町となって、昭和30年峰上村、環村、関豊村が合併し、峰上村となり、昭和38年(1963)に天羽町と合併しました。

昭和46年4月25日(1971)に3町合併により、富津町となり、同年9月1日に市制施行による富津市が誕生しました。

(2) 地図

「Google マップ」をご参照ください。

<https://www.google.com/maps/place/千葉県富津市/>



富津市の南半分、色がついている部分が今回の対象エリア「天羽」です！

金谷地区 第5区久保

人口:165人

男性:83人 女性:82人

令和4年10月時点

参考:基本台帳人口(行政区別人口)富津市役所市民課



金谷地区の地図

特色

海と山に挟まれた地域に住宅地が広がっています。その一方で、鋸山の登山道があるほか、東京湾フェリー乗り場からも歩ける距離にあるため、土日祝日には観光客の姿が見受けられます。近年では「石と芸術のまち金谷」をテーマにしたまちづくりが金谷全体をあげて行われています。金谷5区は、およそ60年ほど前までは多くの部分が水田でしたが、開発が進み、現在はほとんど水田は残っていません。そのため、農業を生業としている世帯はありません。また、金谷は「フリーランスの聖地」としても知られ、短期移住者が多くいます。

課題

高齢化や、若年層の流出による人口の減少を課題として挙げる方が多く、地域の催し物への参加者が減少していることを懸念する声もあります。また、2020年に金谷小学校が閉校となり、子育て世帯がより集まりづらくなっているのが現状です。活発な観光客の往来に伴う渋滞や騒音に困っている方もいます。ウェブスキルの向上を目指す短期移住者はいるものの、長く住み続ける移住者は少ないです。一部の移住者の方とは、生活スタイルの違いから、付き合い方が問題となっています。地域内に病院・薬局がないため、今後高齢化に伴う車なしでの生活を心配する方も多いです。

竹岡地区 第1区(寺町、棚岡、十宮、天羽マリーンヒル)・2区(南町、新町)

人口内訳(令和4年10月時点)

	男性	女性	合計
第一区	169	157	326
第二区	115	114	229

参考: 基本台帳人口(行政区別人口)富津市役所市民課



天羽漁協本所(第2区)→

[竹岡地区の地図](#)



↑竹岡駅(第7区)



↑竹岡コミュニティセンター(第2区)



↑皇神社から見た景色(第7区)

特色

竹岡第1・2区は海岸沿いに位置し、国道127号線を境とする地域です。国道沿いには飲食店が立ち並び、しょうゆベースの真っ黒なスープが特徴で、メディアでもたびたび紹介されている竹岡ラーメンを、この一角にある梅乃家で堪能することができます。海岸沿いには漁船が並び、マリンスポーツも体験できます。

第1区の中でも内陸側には天羽マリーンヒル別荘地が広がり、高台から東京湾を一望できると評判です。第2区は、ここに基幹事業の荷捌き所を置く天羽漁協を中心に、漁業のまちとして成り立っています。

課題

国道127号線は房総半島の南端へと向かう道路で、連休や観光シーズンは特に交通量が多いうえ、道路の幅員も狭く、歩行者は十分に注意する必要があります。さらに、タクシーやコミュニティバスの本数が人口減少に伴い少なくなり、自家用車が無いと生活に支障をきたしかねません。

地域産業は第一次産業が中心で、農業と同様に漁業でも、担い手の後継者が不足しています。さらに設備費や燃料費の高騰の一方で魚価安により利益幅が見込めないこと、また食害によるカジメなど藻類の激減、すなわち磯焼けも課題です。

天神山地区第3区花輪

人口: 111人

男性: 57人、女性: 54人

参考: 基本台帳人口(行政区別人口)富津市役所市民課

花輪地区の地図



特色

- ・かつて天神山村だった頃には花輪地区に天神山村役場があり、行政の中心地だった。また2019年度に天羽小学校に統合されるまでは、天神山小学校があった。
- ・天神山地区の中だと世帯数が2番目に少なく、小さい地区。その分小学生のころからの密な隣人関係が構築されており、地域内には温かいコミュニティが存在している。災害時は近所同士で助け合ったりすることもあった。
- ・兼業農家は数軒あるが、専業農家はいない。公務員になる人も多く、君津や木更津の方に勤めに行く人も一定数いる。
- ・天神山地区の中でも立地の良い土地が多い。山がち過ぎず、日当たりの良い農地が残っており、他の地区の人に貸し出して耕してもらうなどしている人もいる。

課題

- ・天神山小学校が閉校になってから、小学校跡地は平日の放課後や土曜日に学童が一階部分を使用するに留まっており、学童が使っていない時間帯や二階部分は活用されていない。
- ・子供や若い人はほとんどいない。地元就職先がなく、若い人は別の地域で働くために出て行ってしまうことが多いため、少子高齢化が進んでいる。
- ・空き家がだんだんと増加している。移住者も多くはないため、今後の管理、活用をどうするかが課題となりつつある。
- ・花輪地区自体には飲食店含む観光資源がなく、外からきた人が立ち寄ることもない。
- ・小学校の廃校でPTAなどのつながりがなくなったことに加え、新型コロナウイルス感染症の流行などにより、住民同士の交流の場が減少している。

湊地区第6区数馬

人口：358人

男性171人 女性187人

参考：基本台帳人口(行政区別人口)富津市役所市民課

湊地区の地図



特色

- ・数馬区には保育園や小学校、高校が集まっており、中学校も数馬区の近隣にあるため子育て世帯には住みやすい立地である。また川沿いの野球グラウンドは千葉県補助金で作られており水捌けが良く、木更津の強豪校の練習場所にもなっていた。
- ・徒歩15分圏内に生活に必要な薬局やスーパー、コンビニがあり、高速バスや内房線の駅もあるため東京や君津木更津方面へのアクセスは良好である。
- ・春には桜が咲く憩いの丘や岩谷観音堂、鶴峯八幡神社などのスポットがある。またそれらの保全のために住民で週末に集まって手入れを行うなど、住民間の交流も盛んで移住者への接し方も温かい地域である。

課題

- ・働く場所が無いので若年層が流出してしまい、人口が減少している。小学校もかつては1学年2クラスあったが、来年の入学予定者はわずか22名である。
- ・駅から徒歩で行ける距離だが電車の本数は少なく高齢者にとっては駅まで歩いて行くのも大変。
- ・産業や観光はあまり盛んではない。水田が多く、農家がたくさんいるように見えるが、実際はほとんど外部者に委託している。
- ・空き家が多いが、外からは判別できず住人がいるか聞かないとわからないため引っ越して来づらく、活用できていない。
- ・猪が出没することが多く、登下校中の子供が遭遇することもあり危険。農業では各自で電気柵を敷く等の対策が求められる。

峰上地区 第14区(中倉第1・第2、志組、小倉),15区(戸面原、逆木、宇藤木、上郷)

人口(2地区合計): 423人 (男性: 224人 女性: 199人) (令和4年10月時点)

参考: 基本台帳人口(行政区別人口)富津市役所市民課



写真: 戸面原ダム(左)、高岩山自然動物園(右)

[峰上地区の地図](#)

特色

第14,15区は、峰上地区の中でも山間部に位置し、森林の多い自然豊かな地域です。そのため、猿や猪、鹿などの動物が多く生息しています。中でもニホンザルが生息していることで有名であり、高岩山自然動物園で飼育されているニホンザルは天然記念物に指定されています。その他にも、釣り客の多く訪れる戸面原ダム、市が運営する安価なキャンプ場など、自然を生かした観光施設が多いのもこの2地区の特徴です。これらの地区では、農業を営む世帯が多いです。米が主にJAきみつに出荷されており、畑作は自給自足の意味合いで行われることが多いです。乳製品を出荷する牧場も数軒あります。そして、神社も多くあり、新型コロナウイルス流行前は祭礼が多く執り行われてきました。

課題

この地区では生活必需品を用意できる商業施設などがなく、また鉄道が通っていないため交通の便が良くないです。そのため、車を運転できない人は買い出しに苦勞しています。また、働く場所がないため、若年層が木更津や君津等近郊の都市に流出し、高齢化・少子化が進んだことによって小学校が閉校になりました。農業面では鳥獣による畑への被害が深刻で、畑作物で生計を立てることが難しい状況です。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で祭礼が中止になったり、担い手の減少によって祭礼の規模が縮小したりしており、地域が活性化するきっかけが少なくなりつつあります。

4. コンテスト実施記録

～第1週～

3月11日(1日目)

開会式の後には地区ごとにアイスブレイク。その後は地区資料の読み込みと1回目の住民インタビューを行い、現状を学びました。夕方には地方創生分野で活躍されている方をお呼びして講演会を実施し、地域への向き合い方などを学ぶことができました。夕食休憩を挟み、夜は最初のプランニングを行い、インタビューで得た情報から様々なアイデアを膨らませました。

3月12日(2日目)

午前中は住民目線ワークショップを実施、本企画のコンセプトの一つである住民目線について考えを深めました。午後はワークショップで得た考え方をうけ、本格的にプランニングを行いました。夜には東大むら塾生に対し、その時点でのプランを発表する中間発表会が行われ、各地区とも有意義なフィードバックをもらいました。

～第2週～

3月17日(3日目)

JR上総湊駅、高速バス富津浅間山BS、東京湾フェリー金谷港より15名の参加学生が富津市民会館に集まりました。全員で自己紹介をした後、地区をシャッフルしての交流会で、参加学生同士親睦を深めました。

3月18日(4日目)

午前中は区長様をはじめとする住民の方に案内していただき、各地区を実際に歩き、第1週のプランニングで気になっていたところの確認などをしました。午後には2回目の住民インタビューを行い、プランニングにあたってより突っ込んだ質問をし、活発な意見交換がなされました。

3月19日(5日目)

ついに最終日を迎えた参加学生の皆さんは午後の最終発表会に向けた準備を進めました。13時から集大成となる最終発表会を実施、3年ぶりに富津市民会館で住民の皆様の前で発表を行いました。どの地区も限られた時間の中で考え抜いた自分たちの案について熱く語りました。最優秀賞の発表等を行い、5日間にわたるむらコンが終了しました。

タイムテーブル

	3/11(土)	3/12(日)	3/17(金)	3/18(土)	3/19(日)
10:00	開会式・ガイダンス	住民目線ワークショップ		地区巡り	プランニング
	チーム内交流会				
11:00	地区資料読み込み				
12:00					
	昼休憩	感想共有			
13:00		昼食			最終発表会
	インタビュー準備				
14:00		プランニング	参加学生到着	インタビュー準備	
	住民インタビュー		全体会・交流会		
15:00				住民インタビュー	
16:00					
17:00	講演会	中間発表会			
18:00					解散
19:00					
20:00	プランニング	プランニング	プランニング	プランニング	

5. 各種実施コンテンツ ご紹介

開会式

今年のむらコンは第1週をオンライン、第2週を対面で実施し、開会式はオンライン形式で行いました。市民会館の様子をzoomで繋ぎ、参加学生は全員zoomで参加するという形で開催しました。むらコンの開催にご協力いただいた富津市長の高橋様、天羽地区区長会会長の嶋野様にご挨拶をいただいた後、企画説明、来賓の皆様や参加学生の紹介を経てむらコン2023が始まりました。



参加学生交流会

むらコンをきっかけに巡り会った参加学生同士や参加学生と東大むら塾生の交流を深め、より充実した5日間を過ごすことを目的として1日目にオンライン、3日目に対面で、計2回交流会を実施しました。参加学生は交流会の間はプランニングのことを忘れ、用意されたゲームに取り組みつつ他愛もない話で盛り上がりました。特に対面での交流会では、緊張が解け、和気あいあいとした雰囲気が見られました。参加学生からは、「楽しかった上に仲良くなる機会を設けてもらえてよかった」「頭を使いつつ、自然と会話ができるよかった」などの声が聞かれました。



地区資料読み込み・区長インタビュー・住民インタビュー

オンライン開催となった第1週では、参加学生は実際に現地を訪れることができないので、事前に東大むら塾の担当者が用意した地区資料(その地域の現状や課題、特色等が、実際の訪問を元にまとめられた資料)を読み込みました。そして、それらを踏まえてさらに知りたいと思ったことを、区長さんや住民の方々にオンラインでインタビューしました。対面開催となった第2週では、参加学生は各地区の公民館にて実際に区長様や住民の方々にお会いし、オンラインでのインタビューを踏まえて深堀りしたいと思ったことについてのインタビューを行いました。



講演会

参加学生のプランニングへのモチベーションに繋げること、そして地方創生についての学びを深めることを目的として、その分野でご活躍されている方々をお招きし、ご講演いただきました。『地方の可能性～地方創生が住民の生活・日本全体にどう貢献するか～』というテーマに基づいて、石島様、吉田様（講演者については下参照・50音順）にお話を伺いました。講演者様ご自身の経験を踏まえ、地方創生の意義やそのアプローチの仕方などについて幅広くお話を伺うことができました。講演後の質疑応答の時間では、積極的に質問が飛び交っており、参加学生は第一線で活躍されている方から様々なことを吸収することができた様子でした。



石島奈奈氏
古民家カフェ一期一会
コミュニティマネージャー



吉田博詞氏
株式会社地域
ブランディング研究所
代表取締役

住民目線ワークショップ

2日目の午前中には、むらコンのテーマの一つでもある『住民目線』について考え、学びを深めるためのワークショップを行いました。参加学生は、ある架空の村における地域活性化プランを、住民になりきって会話するロールプレイングなどを通して評価するというを行いました。むらコンにおける『住民目線』を、実際に体感することで理解していきます。参加学生からは「『住民目線』とは何かを具体的に認識するきっかけとなった」との意見が寄せられました。



プランニング

住民の方々や区長様へのインタビューを通して見えてきた地域の魅力や課題、そして地元の方々の思いを丁寧に汲み取りながらディスカッションを進めていきました。どのチームも与えられた時間を最大限に活用してプランニングに真剣に取り組んでいました。



中間発表会

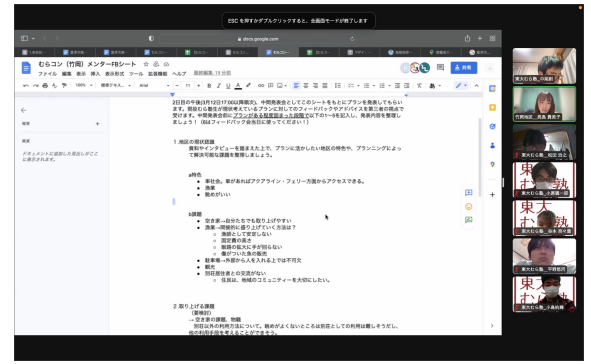
2日目の夜には、参加学生がその時点でのプランを発表し、東大むら塾生からフィードバックをもらうという中間発表会が実施されました。第三者にプランを評価してもらうことで、新たな視点でプランを見直すことができます。どのチームも受け取ったフィードバックを生かし、プランをどう改善しようかと模索していました。

地区訪問

4日目は、参加学生が現地を見て回る地区訪問から始まりました。オンライン期間や平日の話し合いで見学したい場所を決めて、それらを区長様方に案内していただきました。見学の途中で住民の方と話す機会を頂けたり、写真でしか分からなかった現地のスポットを目の当たりにしたことで、プランニングの大きな参考になりました。ご協力頂いた区長様方、住民の方々、本当にありがとうございました。

最終発表会

5日目(最終日)の午後には、5日間のプランニングの集大成として各チーム10分ずつプランを発表しました。どのチームも時間いっぱい考え抜いたプランを堂々と発表し、各チームの発表後には会場の住民や来賓の方々から惜しみない拍手が送られました。発表後には達成感に溢れた表情をしている学生が多く見られました。また、市民会館にお越しいただいた住民の方々からは、学生が現地に赴き、地域の現状や未来を真剣に考えたことに対して高く評価していただきました。審査員8名の審査による「最優秀賞」と会場・YouTubeでの観覧者投票による「オーディエンス賞」を設け、どちらも峰上地区が受賞しました。優勝した峰上地区のプランを含む全チームのプランについては次ページ以降で詳しく取り上げておりますので、ぜひご覧ください。



6. 最終発表会・発表プラン

むらおこしコンテストinふつつ2023最終日の3月19日(日)、最終発表会が開催されました。今回は3年ぶりに対面を基本とする形で実施し、参加学生・審査員・住民の皆様が富津市民会館で、一部の審査員はオンラインで参加しました。お忙しい中、最終発表会に参加して下さった住民の皆様、ご来賓の皆様、審査員の皆様には心より御礼申し上げます。なお、当日審査員として各チームの発表を審査して下さったのは以下の8名の皆様です。

富津市長
高橋 恭市 様

天羽地区区長会会長
嶋野 利郎 様

SMBC日興証券株式会社 Funder Storm
高橋 雄也 様

KDDI株式会社 経営戦略本部 地域共創推進部 企画グループリーダー
大野 聡久 様

ソフトバンク株式会社 人事本部 採用・人材開発統括部 統括部長
足立 竜治 様

東日本旅客鉄道株式会社 木更津統括センター・君津駅長
中川 麻美 様

富津市新富工場協議会副代表幹事・日本製鉄株式会社 総務
橋本 茂 様

株式会社地域ブランディング研究所 代表取締役 (オンライン審査員)
吉田 博詞 様

どのチームの発表も非常に充実しており、素晴らしいものでした。各チームの発表プランを次ページより掲載いたします。スライドの画像につきましては参加学生が作成し、発表で使用したものを一部抜粋して掲載しております。また、発表会の様子はYouTubeにて公開しております。右に、QRコードを掲載しますのでぜひご覧ください。



チーム金谷地区 発表タイトル 「輪っしょい！金谷！」

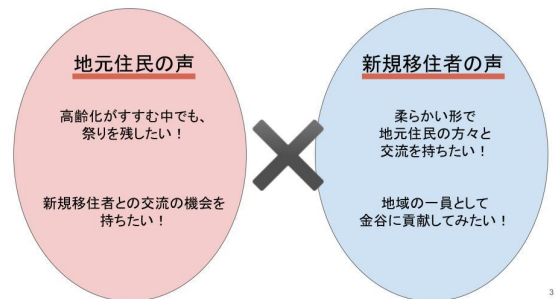
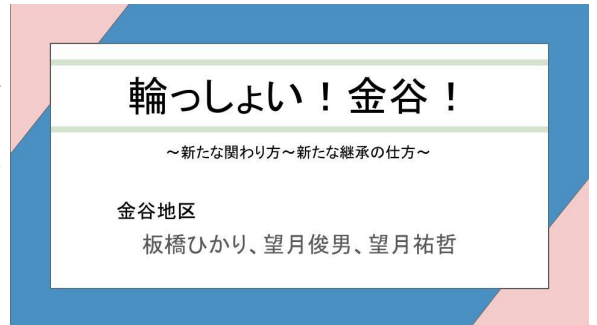
チーム金谷地区は、第5区を舞台に、地元の祭礼に焦点を当てた「輪っしょい！金谷！」というプランを立てました。

海と山に挟まれ、自然資源が豊富で、東京からのアクセスも良い金谷地区は、房総の一大観光地として知られています。また、「フリーランスの聖地」とも称され、様々な分野においてスキルアップを目指す若者が流入しています。そのため、金谷では、国内外からの観光客や短期移住者など、とにかく多種多様な関係人口を有することが特徴です。そして、両者に共通するのは、そのほとんどが一時的に金谷に留まるだけだという点です。住民インタビューでは、そのような人々との交流不足を指摘する声もありました。

そこで、今回のプランでは、既に存在するこのような滞在者が地域の祭礼に参加できる仕組みを提案しました。従来の住民の方々の祭礼への愛着や想いをインタビューで聞く中で、一時的に金谷に来る人々を巻き込み、新たな交流や祭礼の継承を実現することで、交流の場が少ないこと・祭礼の後継者不足を緩和できるのではないかと考えました。

具体的には、観光客は山車の牽引や製作を体験することで、新規移住者はそれぞれの特技を生かして出店や広報を行うことで、それぞれ祭礼に参加することを想定しました。さらに長期的には、毎年訪れる観光客や移住者の中で、祭礼を伝えていくサイクルの形成を目指したいと考えました。

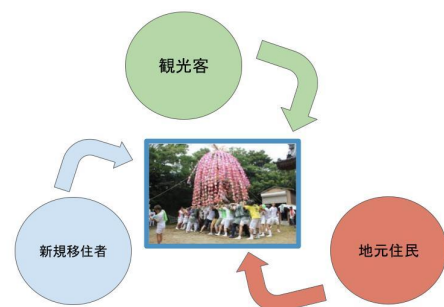
このような施策が、少しでも地域の「ミクロな課題」への解決策となることを願っています。



提案

祭りを中心とした観光客・新規移住者・地元住民の
新たな関わり方を創出する

PLAN



新たな継承のあり方の一つ

- 1回目 祭りの担い手として参加
- 2回目 山車の作り手として参加、1回目参加者への伝授

毎年来る観光客や短期移住者の中で、サイクルを生む



チーム竹岡地区 発表タイトル

「竹岡のまちを元気に！竹岡マーケット」

チーム竹岡地区は、第1・2区の方々から吸い上げた課題意識をもとに、旧竹岡小学校の利活用方法として「竹岡マーケット」を提案しました。

竹岡地区は海と山に囲まれた自然豊かな地域であり、その自然がもたらす食の宝庫としての魅力があります。国道沿いには飲食店が並び、特に第1・2区には竹岡漁港があるように、漁業のまちとしての性格を帯びています。

実際に地域の方々にお話を聞く中で浮き彫りになったのは、①十分に外部の方を呼び込めていないこと、②傷がついてしまった海産物の廉価販売、③若年層人口の流出、以上3点の課題です。

これら課題を解決するための施策として、竹岡マーケットを考案いたしました。そこでは、(1)竹岡地区の有名料理の出張販売、(2)竹岡漁港で取れた魚のうち傷のついたものを適正価格で販売、(3)地域の中学生・高校生に部活の成果を披露してもらう場としてイベントに参加してもらうこと、を想定しています。(1)は竹岡グルメを広報するきっかけになると同時に地域の人にも知ってもらう契機にもなります。また(2)は地域住民の方と漁業との距離を縮める役割も果たします。(3)は地域の学生に地域イベントに参加してもらうことで、地域への愛着を増す効果が期待できます。

この施策を実行する舞台として竹岡小学校に注目しましたが、それは住民の方にとって思い入れのある場所であること、竹岡インターチェンジの近くでアクセスが良いこと、が理由です。閉校となった今も草刈りのボランティア活動がなされていることをお聞きし、この場をそのままの形で活用できないかと考えています。

この案を通して、最終的に地域の輪が広がり、外部からの観光客も増え、今以上に活気あふれるまちになることを願います。

竹岡のまちを元気に！ 竹岡マーケット

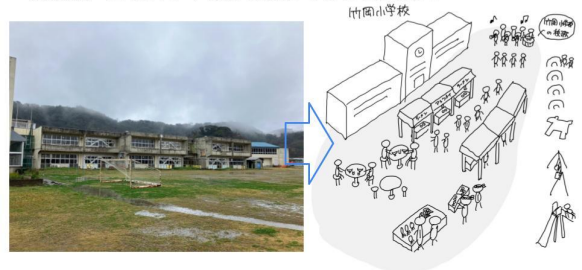


秋山陽菜 齋藤大志 高島貴美子

竹岡の課題

1. 地域の特産物の活用
2. 魚介類の販路拡大
3. 若者がいない！

解決策 旧竹岡小学校を利用して〇〇をしよう！



双方に得られるもの

出店者・出演者

- お店、食材を改めて宣伝できる
- あまり関わりのない他店や漁師さん、農家さんとの交流

参加者

- 普段食べないような竹岡の特産品や料理に触れられる
- 地域の人との交流の場

こんなまちになってほしい

- 住民の方々が協力し合い、地域の輪が広がる
- 規模が大きくなれば、雇用の場の創出につながる
- 観光客を増やす

活気溢れる街に！



チーム天神山地区 発表タイトル 「見える聞こえるはなわのわ」

チーム天神山地区は第3区花輪を舞台に、地域住民の方と学童の子どもたちの交流を生み出す「見える聞こえるはなわのわ」というプランを立てました。

天神山第3区花輪地区は、今回むらコンの舞台となった地区の中でも比較的狭い地域であり、その分住民の方々の親密な人間関係が特徴として挙げられます。また、数年前に閉校になった旧天神山小学校跡地が地区の象徴的な存在としてあります。事前の住民インタビューでは、日中に子どもたちの声が聞こえなくなってしまうことを寂しがり、小学校跡地の活用法を模索する声が多数聞かれました。ところが、住民インタビューを進める中で、コンテスト参加者が想定していたよりも、花輪地区の住民の方々が旧天神山小学校跡地で実施中の学童で何が行われているかをご存じでないという点に違和感を覚えました。

この点に注目し、チーム天神山地区のプランでは、まず地域住民の方が学童で何が行われているのかを知ること、そして次に「絵本」を媒介にして、学童の子どもたちと地域の方々の交流を図ることを目的としたプランを提案させていただきました。具体的には、①住民の方にご自身の昔話などを元にして絵本を作成していただき、②子どもたちに対してその絵本の読み聞かせをしていただきます。次に③子どもたちが自分たちで絵本に出てくるような絵を書いてみて、住民の方々にはそれを見守っていただきます。そして④住民の方々と一緒に子どもたちが花輪地区の町巡りを行い、⑤子どもたちの絵を看板にして町の置きたい場所に設置します。

街歩きを一緒に行うことで、住民の方々に子どもたちの声により近く「聞こえる」ように、そして子どもたちの絵を看板として設置することで日常的に子どもたちの存在が「見える」ようになることが期待できると考えました。また、まずは子どもたちが地区の方々と関わってみることで、将来的に子どもたちが花輪地区に興味を持つきっかけ作りが出来るのではないかと考えました。この案が、少しでも地区の方々が学童のことを知るきっかけとなり、花輪地区の温かいコミュニティが続く一助となれば幸いです。



プランの据える課題・理想状態

課題 花輪地区の住民ときんこく塾の子供たちがお互いのことについて知らないこと。

理想 地域ときんこく塾の児童とその活動をお互いに知っている状態がプランを通じた理想状態。

手法

交流

第②段階

★住民の絵本を学童員が図書館で読み聞かせ



★子供達が自身の絵を書く(住民が見守る)



★花輪一周散歩をする

効果 地区歩きをすることで…?



住民達

子供たちの声が外で聴こえることで
子供の活気を感じることができる



子供達

馴染みのない花輪地区を
実体験を通して感じることができる

将来の展望

第二の故郷ができ、子どもが関係できる

青年期

地区を離れても、故郷のことが頭の片隅には残る
学童に通っていた子どもが、地域の部活動で活躍している姿を応援できる

大人になってから
地域に関心をもつ

もしかしたら再び関わってくれるかもしれない

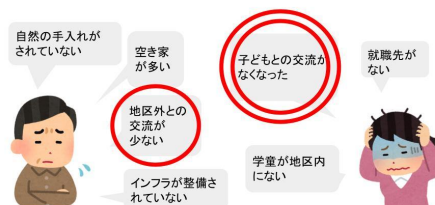
チーム湊地区 発表タイトル 「飲め！ 食べ！ 遊ベッ！ かずまつり」

チーム湊地区は第6区を舞台に、縮小・中止されていた行事を補填する「かずまつり」というプランを立てました。

数馬地区には天羽小学校と天羽高校があり、隣の岩坂地区の天羽中学校と合わせて学校が揃っているため天羽地区の中でも児童生徒が集まる地域です。また区長会を中心に住民同士の交流が盛んであり行事の賑わいも特徴でした。しかし、コロナ禍によってそうした行事が縮小・中止されたり、人口減少や少子化、家の中で遊ぶ子供の増加などによって子供の姿・声を見かける機会が減少したりして寂しいといった声が住民から挙げられました。

これらのことを踏まえてチーム湊地区のプランでは行事を補填しつつ「大人も子どもも楽しめる」ということに主眼をおいた「かずまつり」の開催を提案しました。従来の伝統的な祭礼では準備のために二ヶ月ほどを要しており、人口減少による一人当たりの運営の負担の増加、一日まるまる使うようなイベントに参加しなくて良いことによるある種の「楽しさ」を感じてしまっている住民もいることなどの課題に対し、神事や祭りの中での出し物などを取り置いて子どもも楽しめる軽いレクリエーションと食事ができる半日ほどの場の提供という形のお祭りを行うというものです。レクリエーションは富津市カルタや球技など既存のものを使いつつ景品や対戦カードの面でより楽しめるよう工夫することで準備にかかる時間をごくわずかに抑えつつ、広いスペースが特徴の数馬区公民館や明るく盛り上げ上手な住民の方々の気質を活かせると考えました。また、長期的には地域の活気をより増幅するためにスクールバスなどの交通網を活かして数馬区に限らない近隣地区の住民を招いたり、JRの鉄道駅や高速バスのバス停から近いことを活かして都会へ出た若者が帰ってくるきっかけや新規住民を呼び込むきっかけにもなりうるのではないかと期待もこめて以上のプランを立てました。

住民からの意見



簡易説明

「飲め！ 食べ！ 遊ベッ！ かずまつり」とは...

前半：子供も大人も参加できるレク

後半：大人は飲んだりもできる食事会

楽しさOnly!

大人は飲み食いして仲良くなる!! (実証済み)

提案の内容①

運営

- 子供会、青年会、壮年会、福寿会、婦人会

会で協力すれば良いのでは？

参加者

- 老若男女
- 天羽小に通う地区外の子供たちも
- 数馬→湊→周りの地区(徐々に拡大)
- 富津(湊)を出ていった人(将来的に)
 - 将来帰って来たいと思えるふるさとへの思い出にするために



カルタ大会(例)

- 毎年開催(10時~12時)
- 大人も参加(計60人程度)
- 個人戦トーナメント式
- 1試合15分×6
- 富津ふるさとカルタを使用
- 優勝者には景品とトロフィー
- 優勝者は知識自慢の副区長(豊屋さん)とエキシビジョンマッチ



子供同士や子供と大人の交流による影響

子供同士:

- 地区外の子供と知り合える
- 外で遊べる



子供と大人:

- 相互扶助、地域とのつながりの構築
- 子供が中でゲームするより、外で遊ぶ姿を大人が見られる



大人同士の交流による影響

- 地区をまたいで交流、盛り上げ



- 子育てなど情報交換



- 新規移住者、地元に戻った人とのコミュニケーションの場



チーム峰上地区 発表タイトル 「あつまれ！峰上の基地」

チーム峰上地区は、第14区,15区を舞台に、峰上に眠っている魅力を発見する「あつまれ！峰上の基地」というプランを立てました。

峰上地区は、天羽地区の中でも特に山がちで手つかずの自然が残っている地域です。また、動物園やキャンプ場、パノラマ広場など、その自然を生かした観光施設も多いです。しかし、その施設が整備されておらず、外部から人を呼び込むことができていないというのが現状です。また、住民インタビューから、「高齢化や人手不足により草刈りができない」「災害時に復興を手伝ってくれる人が欲しい」「獣害により農作物が育たない」等のミクロな課題が見えました。以上から、チーム峰上地区は、「関係人口」を増やすことを目的としたプランを考えました。ここでいう「関係人口」とは、災害時などにその地域を自分事として考えてくれる人、その地域を認識して関わろうとしてくれる人のことだと私たちは定義しました。

プランの内容としては、都市に住む小学生を対象に、大学生や地域住民、市が主体となってボーイスカウトやガールスカウトのようなイベントを実施するというものです。秘密基地作りはそのイベントのうちのひとつで、地域にある材木等を利用して、小学校では体験できないような自然とのふれあいを楽しんでもらいます。これにより、地域の関係人口を増やすことができれば、住民の方々のミクロな課題が解決できるのではないかと考えました。

峰上の魅力

- 自然が豊か
 - ・四季を感じることができる
 - ・景色がきれい
 - ・過ごしやすい気候、中山間地帯



インタビューから見えた課題

- 人がいない
 - ➔ 1. 草刈りができない
 - 2. 農作業が進まない
 - 3. 獣害の拡大
 - 4. 災害時の復興作業が進まない
 - 5. 文化・魅力の継承ができない
 - 6. 交通の便が悪い、商店ができない



課題から導き出した案

関係人口を増やす

* 関係人口とは：災害時などにその地域を自分事として考えてくれる人、その地域を認識して関わろうとしてくれる人

↓
地域の魅力を発信、若者に主体的に考えて行動する機会の提供の必要性

「あつまれ！峰上の基地」



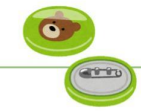
「あつまれ！峰上の基地」の概要

何をするのか

ガールスカウトやボーイスカウトのように、峰上に眠っている「魅力」を体験し、達成することで、バッジがもらえる
 <例>
 釣り(夏)・キャンプファイヤー(夏)・サルのえさやり・牛乳豆腐作り・秘密基地作り・農作業

金銭面 会員制(年会費約1万円を想定)

宿泊する場合の場所 キャンプ場、シニア館



「あつまれ！峰上の基地」で期待できる成果(峰上側)

- 地域内の循環、資源を無駄にせず活用する
- 峰上に訪れる人を増やすことができる
➔ 人が増えることによる獣害軽減
- 関係人口を増やすことができる



7.参加学生アンケートまとめ

むらコン2023実施後、参加学生を対象にアンケートを実施いたしました。

アンケート概要

- ・記名方式、選択質問、自由記述の質問混在
- ・参加学生全員に対してグーグルフォームのリンクを送信し、アンケートの依頼を行った。
- ・できるだけ多くの回答が得られるよう、複数回呼びかけた。
- ・参加学生15名に対して実施、3月末現在で13名から回答を得ることができた。
- ・各コンテンツへの満足度や時間配分の適切さについて、「あまり満足していない(短すぎる)」を1、「大変満足している(長すぎる)」を5として、各項目5段階で評価してもらった。
- ・適宜、自由記述欄を設け、各コンテンツについての意見・感想を募った。

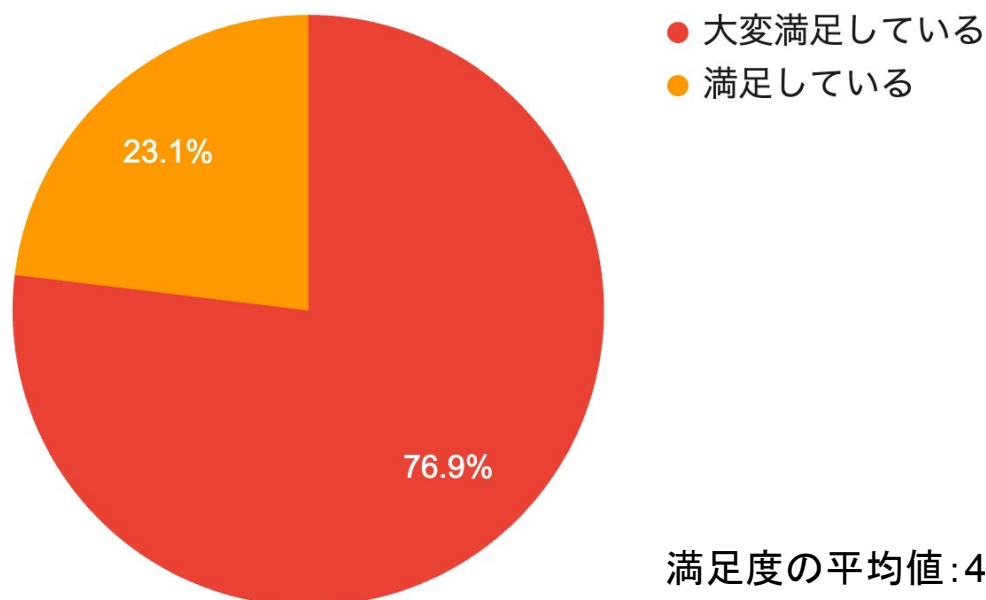
次ページより、アンケート結果の一部を公表いたします。なお、5段階評価については得られた回答は全て反映しております。

また、次ページからのアンケート結果において満足度の平均点は以下の計算式によって計算しております。平均点が高いほど参加学生による評価が高いと言えます。

5段階評価の数字を満足度の点数と対応させます。

満足度計算式: $\{(\text{満足度の点数}) \times (\text{その点数を回答した参加学生の人数})\text{の和}\} \div (\text{回答者の人数}(13名))$

質問:むらコンにどの程度満足していますか？



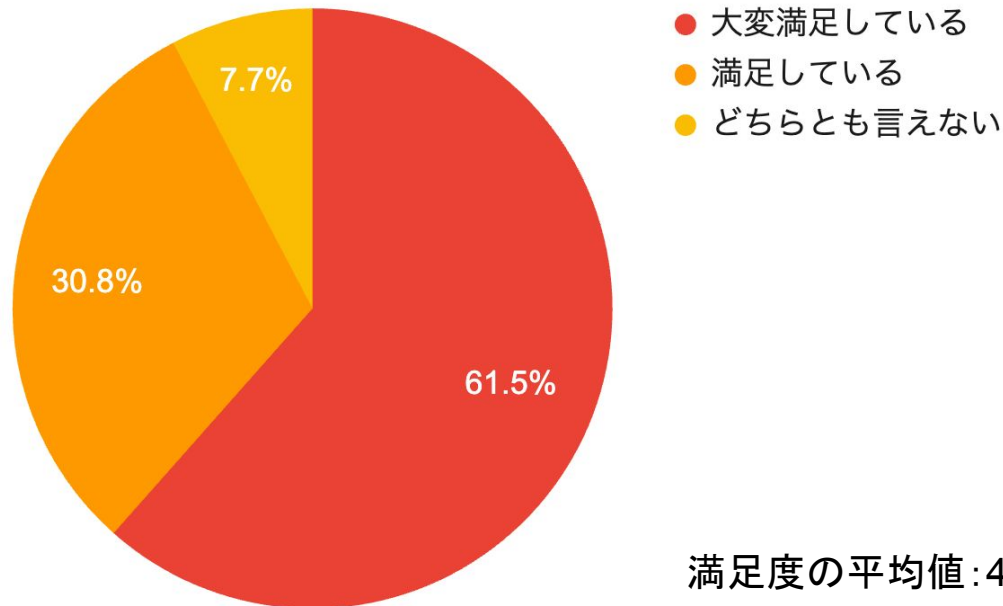
参加学生の声(抜粋)

- ・住民インタビューの時間が多く取られており、より長く地域と接する事ができたことがとても良かった
- ・住民の方々の意見を直接聞く機会は本当に貴重なものだった。
- ・多くの人とかかわっていく中で、自分とは異なる価値観に触れ、自身の経験として吸収できることがあった。
- ・対面で作業することができ、充実した三日間を過ごすことができたと感じた。同じグループの仲間と最終日には別れるのが寂しいと感じるくらいの絆ができた。
- ・むら塾、住民の方々や参加者がいい人たちばかりでとても充実していて楽しかったです。オンラインオフラインとも飽きずに集中できました。

分析

- ・むらコンへの満足度は回答者全員が「大変満足している」または「満足している」を選択し、3以下の評価をした回答者は1人もいなかった。全体として満足度の高いコンテストを運営できた点で高く評価できる。
- ・むらコンに満足していると回答した理由として、地域や住民の方との直接的な関わりが多数挙げられた。住民インタビューや地区訪問といった、むらコンが掲げる「住民目線」を実現するためのコンテンツが評価されたと言える。
- ・また、参加学生同士の交流を理由とした回答が複数あったことから、学生は現地で顔を合わせて寝食を共にしコミュニケーションを取ることによって、より親密な関係を築くことができたと言える。これはオンライン形式だけでなく対面形式も採用したことによる効果であると考えられる。

質問: プランニングについて満足度を教えてください



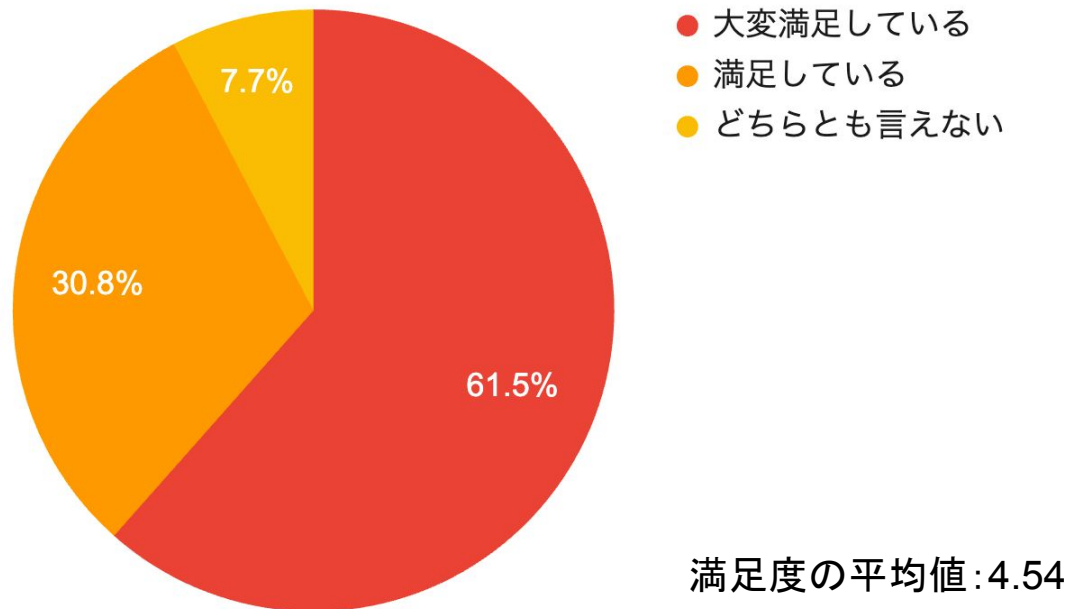
参加学生の声(抜粋)

- ・意見があまり出てこない時に(むら塾生が)会話が進むように調整してくれたのがありがたいと感じた。
- ・(むら塾生が)適宜、指摘をしたり、議事録を取って下さり、とても快適にプランニングができました。
- ・プランニングは、評価項目に合うように確認したり、チーム内で意見の方向性を慎重に定められたので良かったです。
- ・前夜の日が変わったところにプランの方針を変え、そこから数時間後にスライドを作り始めたため、スライドと台本の構成、作りこみにまだまだ改善の余地の多い状態で本番に挑んだので悔しさが残りました。

分析

- ・むら塾生によるファシリテーション(議論を円滑に進めるためにサポートすること)が効果的に働いたこともあり、プランニングでも全体として高い満足度を得ることができた。
- ・むら塾の地区担当に対しては「ファシリテーターでありつつも適宜足りない視点などを補う存在であってほしい」という回答が多数を占め、実際に地区担当はそのような役割を果たすことが想定されていたことから、むら塾生と参加学生の距離感が適切であったと言える。また、地区担当が事前に用意した地区資料を高く評価する意見も見られた。
- ・一方で、「時間が足りない」との声も複数いただいた。限られた時間の中で充実したコンテンツ内容を含むコンテストを開催するためには、多少ハードスケジュールとなることはやむを得ないが、プランニングの時間が参加学生の目線からして十分に確保されていたかどうか検証する必要がある。

質問:最終発表会について満足度を教えてください



参加学生の声(抜粋)

- ・緊張でカミカミだったが、地区担当のむら塾生がうまく緊張をほぐしてくれたため、またチームワークが良かったため、最高のグループだったと感じています！
- ・結果発表後に審査員の方々の講評があれば、今後活かせると思った。
- ・制限10分を大幅に超えてしまい申し訳なかったです。可能であれば来年以降目安を少し伸ばしていただければと各チームゆとりをもってより良い発表になるかなと思います。
- ・賞状などを頂けたら嬉しかったです。頑張りがかたちに残ったらより思い出にできるなと思ったので...

分析

- ・最終発表会についても満足度平均値は 4.5を超え、高い評価を得ることができたと言える。
- ・一方で、発表会の形態について複数の要望をいただいた。発表時間の長さについてはコンテスト全体の時間配分を考慮しつつ検討する必要があるが、審査員の講評や賞状に対する希望については柔軟に対応する余地があるだろう。
- ・「投影されたスライドがバグっていた」「発表ギリギリまでスライド作成など発表準備をしていた」など、運営側と参加学生側の両方に準備不足が考えられる意見があった。学生と運営と一緒にリハーサルを行う時間が確保できれば、これらの問題は解消できると思うので検討したい。

参加学生の声

参加学生の、むらコンに参加しての感想を一部掲載いたします。

・人の温かさに触れた5日間だった。特に、コワーキングスペースまるもにアポなしでインタビューをさせていただいた際に、管理人の方が知り合いの方を紹介してくださり、追加でインタビューをすることが出来たことである。突然の訪問であったにもかかわらず、親切な対応をしてくださり驚いた。また、自分では思いつかない発想や考え方に出会えて、非常に良い経験であったと思う。(国学院大学 金谷地区チーム)

・初めは自分に自信が持てなくて発言も上手く出来なかつたりすごく緊張してしまったりしてたけど、話し合いを進めていく中で大学で学んでる専門スキルを活かしてすごいと褒めてもらった瞬間や、地元の例を取り上げて発案の材料になったときに、自分にしか出来ないことでチームの役にたてるのが実感出来て普段大学にいるときには感じる事ができなかった自信を持つことが出来ました。(大学等非公開)

・本当に良い経験になりました。何より、このコンテストに参加した新しい友達に会えた事がこのコンテストに出て一番大きな財産になったと思います。また、これだけ一つの地域に真剣に向き合い、形にする経験をした事で、私自身のこれからの何かに取り組む際の自信の一部になったと思っています。(福井大学 天神山地区チーム)

・参加することができて本当に良かったです。高校生活の大半をコロナ禍で過ごしたので、同じ目標を掲げる仲間がいて、一日の長い時間を共に過ごし語り合い、その集大成として人前に立ち発表する経験は本当に久しぶりでした。達成感がありとても充実した時間だったと思います。また、沢山の住民の方に迎え入れていただき、地域について向き合い、考える時間を体験したことは自分にとって大きな経験となりました。(国学院大学 峰上地区チーム)

・参加者全員が非常に意欲的に取り組んでくれた事が非常に良かった。短い期間だったが、他の参加者やむら塾生、地域住民の方々と交流を深めつつ、ある程度納得のできる案を考えることが出来て良かった。また、多くの人と交流できたことでその分多くの意見を聞くことができ、より多角的な視野を持てるようになったため、非常に学びのある5日間だった。今後ほかの学外イベントにも参加したいと思えた。(東京工科大学 湊地区チーム)

・プランニングには、すごく頭をつかった。その分、住民のインタビューで目的意識をもって聞けたので良かった。むら塾の方は、意見を直接言うのではなく、意見を出せるように導いてくれる役割をしてくれたので議論しやすかった。また、今回、私のグループが地域の人のお家に泊めてもらったのも、住民目線や地元の雰囲気を知れたので良かった。地方創生に興味をもって参加したが、このイベントは、これまでの参加したイベントで一番充実したものだった。(早稲田大学 天神山地区チーム)

・とてつもなく楽しい経験になりました。他の参加者やむら塾生、住民の方々とこれからも繋がってほしいと思えました。初めはうまくできるか不安でしたが、ファシリタのサポートや優秀なメンバーのおかげでスムーズにプランニングできました。(東京大学 湊地区チーム)

続いて、天羽地区へのイメージの変化について掲載いたします。

・参加前はどの地区も同じような課題を抱えていると思っていたが、それぞれの地区にそれぞれの課題があり、階級別人口割合などのその地区の武器や魅力となる部分も異なっていて、非常に興味深かった。(国学院大学 金谷地区チーム)

・そもそも富津市について知らない状態から始まったので、むらコンに参加してみて自分が住んでる所とは異なる穏やかさだったり、地域住民の方がつくりだす食の美味しさがある事を知れました。(大学等非公開)

・狭い地域でありながらも、それぞれ特色をもっていると思った。住民目線にたつことはもちろんながら、学生としての視点や考え方をいかに取り入れるかどうかが、住民から納得感が得られると感じた。(早稲田大学 天神山地区チーム)

・事前の写真だけだと、過疎化が進んでもはや限界なのではと思う程でしたが、むらコンに参加したことで見え方が変わり、そこには人の温かさや、土地ならではのものがあるのこに気づかされました。(福井大学 峰上地区チーム)

・初めは富津の読み方もわかりませんでした。いまは富津の魅力がすごく伝わってきて、また行きたい(あわよくば移住したい)とも思うようになりました。まだ救いようのある過疎地域であると思います。言葉では言い表せない、現地に来て感じるしかない魅力があると思います。(東京大学 湊地区チーム)

・むらコンを通して知った場所で、事前資料を読んだだけの時は人口減少の進んだ静かな場所と感じた。むらコン終了後は、人口は少ないが情熱のある方や地元愛に溢れた方が多く在住する場所という認識になった。(東京工科大学 湊地区チーム)

今後も富津市や天羽地区を訪れたいか5段階で尋ねたところ、13人中8人が「5(ぜひ訪れたい)」、5人が「4(訪れたい)」と回答し、参加学生のなかで天羽地区への愛着が増したことが読み取れました。

8. 関連メディア情報

①PR TIMES(2023.1.31)

東京大学の学生サークル『東大むら塾』が「むらおこしコンテスト inふつつ 2023」支援者への返礼品に「NFT」を選ぶ理由

<https://prtimes.jp/story/detail/obezRITka3B>

②かずさFM「かずさどこでもラジオ」(2023.03.12および2023.03.19)に出演しました。

9. 特別協賛・協賛企業の紹介

「むらおこしコンテストinふつつ 2023」は、次ページからご紹介いたします、企業様にご協賛いただきました。

また、他にも、クラウドファンディングや個人協賛を通じ、東大むら塾、富津市、天羽地区にゆかりのある方々をはじめとして全国の皆様からご支援いただきました。この場にて改めて深く御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

特別協賛①

SMBC日興証券株式会社

当社ではより良い未来の創造に向けて金融の力を活かすべく、事業活動を通じた社会貢献を実践することにより、お客さまや社会とともに明日に向けて力強く歩む存在でありたいと考えております。

創造的企業への変革を目指し、社員が従来の発想にとらわれることなくアイデアを出し合い、新たな価値を創出することを目的とした社内プロジェクト「Nikko Ventures」を2019年9月に立ち上げ、そこから生まれたオープンイノベーションチーム「Funder Storm」では、イノベーター創出プログラム「高専インカレチャレンジ」や Web3.0を活用した新しい街づくりのエコシステム「NEO KYOTO NFT ARTs」の立ち上げ、ふるさと納税を活用した新たなクラウドファンディングの仕組みの開発など、証券会社のリソースやノウハウを活用した日本の未来を変革するエコシステムの創出に注力しています。また、2020年3月に設立したNikko Open Innovation Labにおいても、メタバースやSDGs、Financial well-beingをテーマにデジタル技術を活用した新規事業の創出に取り組んでいます。

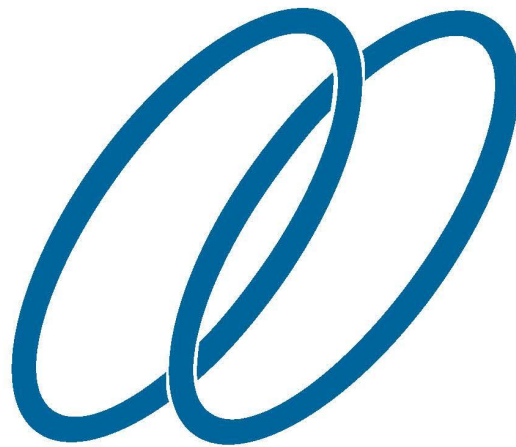


特別協賛②

株式会社マインドシェア

株式会社マインドシェアは、顧客とともに選ばれる独自の価値をつくりあげ、戦略立案から開発、実施運営までを手掛けるマーケティング会社です。

民間企業、行政から学校、子育て世代までを事業領域とし、地域マーケティングの部門の中でも「ムラの生命をマチの暮らしに、マチの活力をムラの生業に！」をテーマに、人材育成、特産品開発から交流人口拡大まで幅広いマーケティングに取り組んでいます。



MINDSHARE INC.

株式会社マインドシェア

特別協賛③

KDDI株式会社

KDDIは、発足以来、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献することを企業理念として掲げてまいりました。私たちの事業は極めて公共性が高く、お客さまの生活そのものに直結しています。「ずっと、もっと、つなぐぞ。au」をスローガンに、社会的に重要な役割を果たすとともに、お客さまの期待を超える感動をお届けしてまいります。

■KDDIの地域共創

KDDIは、SDGsの達成に向け、事業を通じて解決する社会課題の一つとして、地域共創に取り組んでいます。ICTを生かしたビジネスの知見や、人財育成、ファンドを軸にした地域企業のサポートに加え、教育における地域格差を解消するための環境整備もあわせて推進していきます。地域や企業とのパートナーシップにより、課題を継続的に解決することで「地域の明日」を創っていきます。

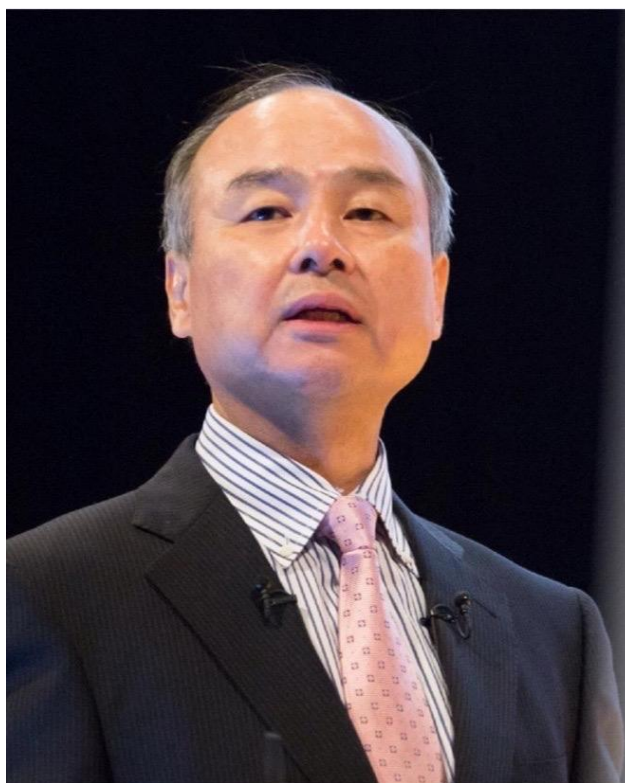


特別協賛④

ソフトバンク株式会社

国内外のモバイルインターネットを基盤として、人工知能、ロボット、IoT事業などの革新的な領域へ進んで挑戦してきました。

モバイルインターネットの枠組みを超え、ITの総合企業としてさまざまな事業へ参入し、世界の事業を日本へ、そしてその技術とビジネスを日本から世界へ打ち出していく『Beyond Carrier, Beyond Japan』の戦略のもと、さらなる進化に挑戦します。



 SoftBank

情報革命で人々を幸せに

国内外のモバイルインターネットを基盤として、人工知能、ロボット、IoT事業などの革新的な領域へ進んで挑戦してきました。

モバイルインターネットの枠を超え、ITの総合企業としてさまざまな事業へ参入し、世界の事業を日本へ、そしてその技術とビジネスを日本から世界へ打ち出していく「Beyond Carrier, Beyond Japan」の戦略のもと、さらなる進化に挑戦します。

特別協賛⑤ 東日本旅客鉄道株式会社

【JR東日本千葉支社木更津統括センター君津】

JR東日本君津駅は地域の皆さまと連携し「駅からハイキング」や「鋸山ワイン商品」等を通じて、地方創生・地域活性化に取り組んでおります。
また、JR東日本としても各地域で様々な商品をご用意しております。
是非JR東日本のHPや公式SNSで素敵な旅を探してください！

【JR東日本HP】<https://www.jreast.co.jp/>

新幹線や特急のご予約には「えきねっと」が便利です。
【えきねっと】<https://www.eki-net.com/personal/top/index>

【3月25日～26日】
八王子直通列車マザーファーム号が運行します！



千葉支社

マザー牧場 x 鉄道
臨時特急
マザーファーム号
全車指定席
ダイヤ外アクセス！！
3月運転日
25日(土)
26日(日)

時刻表		※全車指定席	
往路	7:50発 八王子	8:02発 立川	8:33発 新宿
復路	18:29着 八王子	18:17着 立川	17:48着 新宿
	8:44発 秋葉原	8:49発 錦糸町	9:04発 船橋
	17:35着 秋葉原	17:29着 錦糸町	17:14着 船橋
	9:09発 津田沼	9:21発 千葉	9:27発 蘇我
	17:10着 津田沼	16:59着 千葉	16:52着 蘇我
	9:34発 五井	9:49発 木更津	9:56着 君津
	16:43着 五井	16:26着 木更津	16:20着 君津

マザー牧場 直通路線バス
君津駅南口 ↔ マザー牧場
君津駅南口1番のりばから出発します
1番のりば

きっぷのお申込みは「えきねっと」が便利！！

特別協賛⑥


富津市新富工場協議会

富津市新富工場協議会は、新富工場地区で様々な事業活動を行っている会社が加盟しており、現在25社が加盟しております。

当協議会は、会員相互の連絡を密にして、会員各社の事業活動の円滑化を図るとともに、地域社会の発展に貢献することを目的としております。


地域のみならずとともに...


富津市新富工場協議会

 株式会社 アイ・エス・ビー

 **AKAHOSHI**
赤星工業株式会社

 NS-SSC NSステンレスサービスセンター株式会社

 株式会社 荏原製作所


 イム・イム・プラスチック株式会社


 株式会社 大滝商会

有限会社 岡本産業


 関東エアウォーター株式会社

 株式会社 駒井ハルテック

 **JERA** 富津火力発電所
株式会社JERA

 株式会社 眞正

 **Sumitomo**
Heavy Industries Modern, Ltd.
住友重機械モダン株式会社


 土井鋼材株式会社


 東京パワーテクノロジー株式会社


 **NIPPON STEEL**
日本製鉄 技術開発本部

 **TMI** 東港金属株式会社
TOKO METAL
Toko Metal Engineering Company


 **NIPPON STEEL**
NS-TEXENG 日鉄テックスエンジ株式会社

 株式会社 日本パウアー

 日本ドラム株式会社

 日本ハイボルテージケーブル株式会社

 株式会社 ピーエスケー  東日本資源リサイクル株式会社

 株式会社 ハマダ

 株式会社 ピーエスケー

 株式会社 広田鉄工所

 **R** リ・バレット株式会社

(あいうえお順 加盟 全25社)

特別協賛企業⑦

南房総モータースポーツ協会

南房総モータースポーツ協会は、富津市を中心に親子で楽しめるモータースポーツをコンセプトとして15年ほど青少年健全育成・地域活性化を目指し非営利で活動して来ました。

北は北海道、南は広島から来訪者が来るような場所でしたが使えなくなってしまった為、新たな活動場所を探しています。

富津市近隣で何か良い情報がありましたら宜しくお願い致します。



A協賛①

小泉酒造合資会社

東魁盛醸造元 小泉酒造合資会社

ソムリエハウス酒匠の館(さかしょうのやかた)

1793年創業。代表銘柄は東魁盛・東魁。現在は14代目蔵主の小泉文章が杜氏を務める。1980年代から自社田で酒米生産に取り組む。1996年に蔵隣接の直売所「ソムリエハウス酒匠の館」を開設。大吟醸東魁盛は、日本酒業界で最も権威のある全国新酒鑑評会で直近11年間連続入賞、うち9回金賞を受賞。東京国税局管内でトップの受賞回数を誇る。純米吟醸東魁粒すけは、「食のちばの逸品を発掘2022」(一般部門)銅賞。アルコール飲料として初受賞。

※「東魁盛(とうかいざかり)」「東魁(とうかい)」



A協賛②

有限会社ちばマガジン

有限会社ちばマガジンは、各種印刷物の企画制作、広告宣伝、インターネットを利用した各種情報サービス、ふるさと納税支援業務等を行っている会社です。

知る人ぞ知る名店や人気おでかけスポットなど、千葉県の魅力を伝える情報誌『月刊ぐるっと千葉』をはじめ、グルメ別冊『あなたの街の美味しいお店』も発行しております。これからも「千葉県」を盛り上げていきます！



A協賛③ 和蔵酒造株式会社



～「和」の酒文化を人の「和」で未来に繋げる～

明治7年に現在の富津市竹岡の地に創業。主銘柄は「聖泉」「竹岡」

「基本に忠実」「手間を惜しまない」をモットーに「伝統と革新の融合」を理念とした酒造りの姿勢を貫いています。

富津は美味しい海の幸、山の幸の宝庫。富津の海、大地の恵みの味わいを引き立てる「包容力のある酒」それが和蔵酒造の目指す日本酒の姿です。

登録協賛 株式会社ダイヤモンド・ヒューマンリソース

採用から育成までのトータルソリューションを提供。



株式会社
ダイヤモンド・ヒューマンリソース

【人材開発サービス】

「適性テスト」「新入社員研修」など、企業の採用や育成を支援。

【新卒採用支援サービス】

「ダイヤモンド就活ナビ」「ダイヤモンド LIVEセミナー」など、新卒就活を支援。

【新卒紹介サービス】

新卒採用専門の人材紹介サービス。

新卒採用支援のノウハウとダイヤモンド就活ナビ会員のデータベースを活用し、貴社ニーズに即した学生を効率・効果的にご紹介。

ダイヤモンド
就活ナビ2025

物品協賛 一般社団法人ワカツク



ワカツクは、仙台・宮城、そして東北全体を「若者が育つ地域」になることを目指し、若者と企業が共に成長し合う環境づくりを行っています。

主として「実践型インターンシップ」と「若者コミュニティ形成」の二つの事業を展開しています。

仙台や東北で活躍してみたい人はお気軽にご連絡下さい！



本企画の趣旨にご理解いただき、開催のための温かいご支援・ご協力を賜りました、全ての皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

むらおこしコンテスト inふつつ2023
最終報告書 令和5年3月制作
東大むら塾